

			利用者の主な日中サービスについて		利用者に対する地域生活の支援について		支援体制の確保について	
	市町村	定員	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会
1	大網白里市（クロワール）	10名	食事提供、食事介護、清掃、洗濯、排泄介助、服薬支援、買物、受診同伴、入浴介助、更衣介助、金銭管理、健康観察等。 外部の日中活動サービスの利用者人数は、10名。	障害区分が重度の利用者が多い中、個々のニーズや能力に合わせた支援を行い、充実したサービスを提供している。	春・夏レク、クリスマス会、初詣、カラオケ等。 例年の行事はコロナ禍により開催を見送ることとなったが、少人数での外出ツアーは実施することができた。日常の外出を自粛しているため、毎週スーパーの移動販売を利用し、楽しんでもらっている。 体験の利用等のニーズについて、グループホームに空室がないため、対応できていないが、併設されている短期入所にて対応している。	多くの活動が制限されているなか、活動できる範囲内で適切な支援に努めている。 引き続き感染症対策を実施しながら地域の中でできること、交流をもっていただきたい。	24時間体制で、職員を配置。定時巡回、所在確認の他、食事、清掃、洗濯等生活全般の支援を行えるよう体制を整えている。	24時間体制で支援するために必要な職員数を確保し、適切な支援体制が整えられている。
2	野田市（ソーシャルインクルーホーム野田上花輪）	10名	学習支援、買物支援（同行・代行）、運動支援、お小遣い帳を使用した金銭管理支援、入浴支援、通院等介助（定期受診・突発受診）、移動支援（駅までの送迎）、昼食の提供、訪問関係（訪問リハ・訪問理美容・訪問看護）、季節のイベント 外部の日中活動サービスの利用者は、5名。	障害特性に合わせた支援内容、スケジュールが組まれており、日中サービスが充実していることは評価できる。 グループホームの特徴となるような活動及び支援があると尚良い。また、ADLの維持、向上につながる日中活動を心がけていただきたい。 半数の方が主に日中をグループホームで過ごしていることから、ホーム内での活動について、より充実した内容の計画をお願いしたい。	職員が同行しコンビニ等での買物及び支払い等、利用者の能力に応じて支援している。車で出かけ、公園で散歩をしている。地域資源の活用として図書館や福祉喫茶等を利用している。 体験の利用等のニーズについて、グループホームに空室がないため、対応できていないが、空室が出た際は体験での利用をできるようにしています。	コロナ禍ではあるが、地域へ出ていく計画をされていることは評価できる。 コロナ禍ではあるが、利用者の豊かな生活のため、旅行等の企画も検討されたい。 利用者のニーズに沿った企画をお願いしたい。	日中、土日においても規定の人員配置を実施している。	緊急時にも対応可能な配置をお願いしたい。
3	鎌ヶ谷市（ソーシャルインクルーホーム鎌ヶ谷東初富）	10名	学習支援、買物支援（同行・代行）、運動支援、お小遣い帳を使用した金銭管理支援、入浴支援、通院等介助（定期受診・突発受診）、移動支援（駅までの送迎）、昼食の提供、訪問関係（訪問リハ・訪問理美容・訪問看護）、季節のイベント 外部の日中活動サービスの利用者は、8名。	引き続き、適正な運営に努めてもらいたい。	職員と一緒に散歩をしたり、コンビニ等での買物時にセルフレジの利用・支払いを行う等個々の利用者に合わせて支援を行っている。 体験の利用等のニーズについて、グループホームに空室がないため、対応できていないが、空室が出た際は6泊7日まで体験利用が可能。	引き続き、適正な運営に努めてもらいたい。	日中、土日においても規定の人員配置を実施している。	男性職員は必要と思われるため、募集を続け、可能な限り同性介助に努めること。 研修や実習期間のサポートを行い、職員の定着につなげること。 夜間における人員配置について、パートタイム職員を配置・活用するシステムがあれば良い。
4	松戸市（あおば）	39名	買物、ウォーキング、ドライブ。 外部の日中活動サービスの利用者人数は、38名。	入居者全員が外部の日中活動サービスを利用しており、買物同行等、利用者が閉じこもらず外出できるような支援が行えており、本人が希望する生活を日中活動含め支援できている。 今後、利用者が病気で静養する際の支援体制や訪問看護等の連携などを具体的に示していただきたい。	休日等、GHに残る方については、移動支援を利用し、外出する機会の確保に努めている。 7名の方が体験利用された。他法人のグループホームの入居するにあたり、入居前にグループホームのイメージをもってもらうため、当事業所で5日間体験してもらった。	可能な限り外出の機会を作り、住居内で支援が完結することがないよう、支援が行われています。 体験利用については、一人暮らしの見極め等、単に当該ホームの入居のための体験利用ではなく、純粋な体験利用を行っており、コロナ禍で7名の方を受け入れられたことは、法人努力だと考える。 今後、利用者の高齢化に伴い、支援体制の再構築が課題と考えられる。	利用者がいる限り十分な支援体制が保てる支援者を配置している。	日中・夜間ともに、人員を増やし、基準は満たしていると考えられる。 次回の協議会で、日中活動後、入浴や就寝までは何人体制で対応しているのか、平日の余暇時間の対応はどのようなにしているのか、具体的に示していただきたい。
5	松戸市（ソーシャルインクルーホーム松戸東平賀）	10名	食事提供、入浴介助、排泄介助、居室掃除、洗濯補助、余暇活動、健康管理、受診同行、外出同行等 外部の日中活動サービスの利用者人数は、8名。	入居者の大部分の方が外部の日中活動サービスを利用しており、利用していない利用者に対しても、買物同行や散歩等、利用者が閉じこもることがないよう支援ができている。 また、精神疾患の方に対しても受診同行を行い、医師からの指示の間に入り支援が行えている。 外部サービスが利用可能な方はできるだけ利用していただくよう検討されたい。	利用者の買い物や散歩の同行を行い、地域の方と意識的に挨拶を行い、関係性を築いた。地域におけるイベントは自粛されていることが多かったが、施設内において、クリスマス会等を実施した。 10名の方が体験利用をし、8名の方がそのまま入居された。	コロナ禍において、感染対策をとりながら余暇活動に工夫を凝らしており、可能な限り外出の機会を作り、住居内で支援が完結することがないよう、支援が行われている。 グループホーム独自の無料の体験入所を行い、体験に対してのハードルを下けていることはとても評価できる。	日勤2名以上、夜勤2名での支援体制。人員不足の場合は、他事業所からヘルプ要請をし、人員の確保に努めている。	夜間帯の支援においても、適切な支援体制が構築されており、日中・夜間ともに、人員基準を満たしていると考えられる。
6	茂原市（ヒュッケ）	6名	買物同行・代行、入浴介助、洗濯、掃除、食事提供、健康管理、受診同行、散歩、相談、余暇活動の提供 外部の日中活動サービスの利用者は、5名。	個々の状態に応じた日中活動を、適切に提供できている。	買物同行や住居近隣の散歩をしている。趣味としている仕事を職員と一緒にったり、好きな音楽を聴いたりしている。コロナ禍のため、外出は控えている。 体験の利用は、5名。地域移行を利用し、精神科病院からの退院先としての受け入れや、他法人の相談により、対応が難しいケースの受け入れをしている。	体験利用について、積極的に対応できている。 新型コロナウイルス感染症が収束した後は、外出等の支援に努めていただくよう要望する。	平日、土日とも常時職員の配置。随時で対応、人員が必要となる場合は、連絡網を利用し対応する職員が確保できる体制を整備している。	適切な支援体制が確保されている。 連絡網を利用し、人員を確保できる体制を整備している点は、特に評価できる。

	地域に開かれた運営について		短期入所の併設について		相談支援事業者や他のサービス事業所との連携状況について		その他		
	市町村	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会
1	大網白里市（クロワール）	例年の行事はコロナ禍により開催を見送ることとなったが、昨年度好評であった「コロナ禍でもできる事」として利用者の笑顔の写真付きメッセージカードを家族へ送付した。家族へ連絡する際に利用者と一緒に電話をかけ、家族と会話する機会を増やした。 コロナ禍により、実習生やボランティアの受け入れを見送った。例年は、実習生2名程度、ボランティア20名程度を受け入れている。	家族等と直接交流を図ることが困難ななか、工夫してできる範囲での機会が確保されている。	地域で生活する障害のある方を積極的に受け入れている。 他法人の運営するグループホームにて、問題行動を起こし退所となり、入院もできない状況の利用者1名、措置入院後家族間の問題により行き場がなかった利用者1名を受け入れた。	行き場のない方や緊急時の受け入れに対応しており、評価できる。	同法人が運営している相談支援事業所にグループホームの利用者も頻繁に訪れ、日中は憩いの場としてあるいは相談に行くこともある。職員同士が常に情報の交換や相談、連絡を取り問題が生じた場合は連携して対処している。	日頃より職員同士や事業所との連携が図られており、評価できる。	利用者の入退所はなく、高齢化に伴い身体機能の低下は顕著である。機能維持のため、日中活動に定期的に参加を促し生活リズムを整えた。	利用者の重度化・高齢化に対応したサービスが提供されており、適切な支援が行われている。今後もきめ細やかな支援を期待する。
2	野田市（ソーシャルインクルーホーム野田上花輪）	家族の来訪については、積極的に受け入れている。事業があり来訪できない家族には、電話にて近況報告をしている。地域との関わりについては、散歩や外出の際に挨拶できる関係性作りをしている。 現在、実習生やボランティアの受け入れはできていない。	コロナ禍ではあるが、感染対策を行った上でご家族の来訪を積極的に受け入れていることは評価できる。 グループホーム内に外部の目が入ることも大切であることから、実習生やボランティアの受け入れを検討されたい。 自治会、町内会との関係構築に努められたい。	建物の構造上、女性用の短期入所のみとなっているが、積極的に受け入れを行っている。 緊急的な受け入れは現在ないが、家族の状況や、本人を取り巻く環境の変化等による緊急・一時的な受け入れは、対応していく。	緊急対応、受け入れをどれだけできるかが地域に根付く鍵となるので、積極的な対応ができると良い。	相談支援事業所とは随時連絡が取れる体制であり、障害特性による対応方法での不明点を教えてもらっている。ホームからは本人の状態を細かく相談事業所へ提供している。日中活動サービス事業所に通所している場合は、連絡帳を活用し、体調・通院状況・服薬情報等の情報共有をしている。	情報共有、連携がとれていることは評価できる。日々の記録を大切に、今後も継続していただきたい。		
3	鎌ヶ谷市（ソーシャルインクルーホーム鎌ヶ谷東初富）	家族の来訪については、積極的に受け入れている。事業があり来訪できない家族には、電話にて近況報告をしている。地域との関わりについては、散歩や外出の際に挨拶できる関係性作りをしている。 現在、実習生やボランティアの受け入れはできていないため、コロナの状況を鑑みながら受け入れたいと考えている。	引き続き、適正な運営に努めてもらいたい。	入所者が男性のみのため、男性の利用者を受け入れている。 緊急的な受け入れは現在ないが、家族の状況や本人を取り巻く環境の変化等による緊急受け入れを対応したいと考えている。	日中サービス支援型共同生活援助は短期入所を併設することで、緊急一時的な宿泊の場を提供する役割を担うため、重度障害者のための支援体制の整備に努めてもらいたい。	相談支援事業所とは随時連絡が取れる体制であり、障害特性による対応方法での不明点を教えてもらっている。ホームからは本人の状態を細かく相談事業所へ提供している。日中活動サービス事業所に通所している場合は、連絡帳を活用し、体調・通院状況・服薬情報等の情報共有をしている。	引き続き、適正な運営に努めてもらいたい。		
4	松戸市（あおば）	家族は常に来訪可能で、入居者の居室に入出入りをしている。また、各住居は町会に入会し、ごみ当番等を担当している。 法人内の日中活動施設の実習生を、6名受け入れた。	家族の出入りや町会のごみ当番、地域との交流につながる取り組みを行っている。 日中活動施設の実習生にグループホームの理解を深めてもらえている。 実習生のグループホーム内での実習プログラムの取り入れや、法人外の実習生、ボランティアの受け入れを検討していただきたい。	自宅で母親に暴力をふるってしまった利用者を即日受け入れをした等。（短期入所利用者：計25名）	新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れをストップせざるを得ない状態でありながら、緊急・一時的な受け入れを行っており、セーフティネットとして機能している。 今後増えることが予想される精神障害の方の受け入れについての対応に備えていく必要がある。 また、緊急性の高い利用者を受け入れる場合の職員のシフト変更等の連絡や、指示のシステム化をしていただくよう検討されたい。	基幹相談支援センターや子ども発達支援センターから、緊急時にすぐ対応できるよう短期入所の契約の依頼が多数あり、順次契約を進め、有事に備えている。	基幹相談支援センター等とも連携が取れており、緊急時における対応やサービスが事業所側の都合にならないよう努めている。 また、緊急時の短期入所においても、事前契約が必要であることを関係機関に広く周知が必要である。	2階3階が居室のため、体調不良時には支援者がすぐに対応できるよう、1階に静養室を用意している。機械浴槽がある。車イスでもすれ違えるよう廊下が広く、スロープも設置。	火災時の避難訓練経路等、避難訓練を積極的に行い、建物や人員配置の課題なども整理するよう検討されたい。
5	松戸市（ソーシャルインクルーホーム松戸東平賀）	散歩や通院等の外出同行の際、近隣の方と交流を持つ様になっている。また、基本的には面会の制限を設けておらず、家族の方が時間内であれば、自由に面会できるようにしている。外部のイベントには、感染症対策のため参加できていないため、感染症が収束した後に参加したいと考えている。 現在、実習生やボランティアの受け入れはできていない。今後は積極的に検討する。	コロナ禍の状況次第にはなるものの、家族との交流には、「基本的に面会の制限を設けない」といった配慮や、外出の機会を持つなど、入居者の生活が住居内で完結しないよう支援ができています。感染症が収束した際には、外部のイベントへの参加等、更に地域との交流の機会を増やせるよう期待する。 今後、実習生やボランティアの受け入れを検討した際に、具体的な受け入れ方法やスケジュール等を示せるようにしていただきたい。	2名の受け入れを実施。 要請があった際は、積極的に受け入れをしたい。	新型コロナウイルス感染症の影響で短期入所の受け入れ件数は減少しているが、緊急・一時的等の受け入れについては意欲があり、セーフティネットとしての役割を理解している。 また、要望として、松戸市地域生活支援拠点に登録していただきたい。	利用者に怪我や変化があった際に関係する事業所に対し情報共有をし、連携している。 具体的に利用者が発熱した際などは、通所先の生活介護や各相談員、通院先等に連絡をし、連絡を取っている。	他法人の相談支援事業所とも連携がとれており、サービスが事業所側の都合にならないよう努めている。 助言として、固定の相談支援専門員になっていないか留意する必要がある。	設備をバリアフリーにしている。日々の日中活動や、利用者ひとりひとりのスケジュールを把握して、毎日入浴できるようにしている。	精神障害の方の不穏字の声掛けなど、利用者の状態に合わせた柔軟な対応やサービス提供が評価できる。今後、緊急時の受け入れについての実績を期待する。 要望として、避難訓練などの計画や避難経路の検討をお願いしたい。
6	茂原市（ヒュッケ）	家族との外出や面会は随時対応しており、利用者が孤立することのない体制を確保している。 大学や専門学校から、施設実習や精神保健福祉士実習を受け入れた。	コロナ禍においても、家族との外出や面会を工夫して継続しており、交流の機会が確保されている。 地域との関係性も良好であることがうかがえる。 実習生を積極的に受け入れていることも評価できる。	相談、見学は随時受け入れているが、重度障害者に対する支援体制、設備が充実しておらず受け入れが困難な場合がある。 身内の逝去に伴い情緒不安定になった方や家族関係がうまくいかず一時的に家族と距離を図った方、介護者の入院により自宅での生活が困難になった方の受け入れを行った。	緊急性の高い場合にも積極的な受け入れができています。 可能な限り、重度障害者に対する支援体制を整備されたい。	適宜状況を報告・共有することで、相談支援専門員が状態を把握できる体制をとっている。各関係機関の役割を明確にし、必要に応じてケア会議を実施している。 介護保険を併用している方は、介護支援専門員とも情報を共有している。	同一法人内にとどまらず、相談支援事業者や他のサービス事業所と連携して、支援ができています。		

			利用者の主な日中サービスについて		利用者に対する地域生活の支援について		支援体制の確保について	
	市町村	定員	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会
7	松戸市（グループホームふわふわ松戸）	20名	利用者の特性に沿い、日中活動を日々実施している。グループで季節の創作活動を主に行之い、個別機能訓練、リハビリを定期的を実施。強度行動障害の利用者には、個別に「1日のスケジュール」に沿った活動をマンツーマン支援にて実施。 外部の日中活動サービスの利用者は、8名。	外部利用を使えていない方に対しては、買物同行や散歩等、利用者が閉じこもらず外出できるような支援が行えている。 また、開所して間もないため、入居者には住居に慣れることを優先し、支援している。今後は、外部サービスを利用できそうな方には積極的に検討するとのことであったので、今後も引き続き、入居者にあった支援が行えるよう期待する。 要望として、次回の評価会で、強度行動障害の利用者が12人、日中もホームでのプログラムは一律ではないと考えられるが、その中で職員の配置は2～3名となっている。個別の対応のためにどのような対策をしているのか具体的に示していただきたい。	塗り絵や工作、ボール遊びや職員管理のもと調理実習のようなイベント、レクにて余暇活動をしている。 外出は、近隣のイオンに買物支援、地域交流を深めるためお散歩支援時に挨拶運動を実施。 体験の利用は、18名。グループホームが未経験のなどの利用者にホームでの暮らしを体験してもらっている。体験から本入居への移行だけでなく、今後入居を検討したいというニーズにも対応している。	利用者の障害特性に合わせた支援を意識しており、住居内で支援が完結することがないよう、支援が行われている。 また、挨拶運動といった地域との交流を意識した取り組みが行えている。 体験利用については、一人暮らしの見極め等、単に当該ホームの入居のための体験利用ではなく、純粋な体験利用を行っている。 グループホームでの生活を目指す方に対しても広く使える資源になってほしい。	日中は、1ユニットにつき直接支援員を2～3名配置。 夜間は、1ユニットにつき夜勤者を2名配置。	日中・夜間ともに、人員基準を満たし、充実した人員配置ができていると考えられる。
8	野田市（グループホームふわふわ野田上花輪）	15名	ぬりえ、折り紙、モニターを使い映画の上映、体操、ダンスの映像を流し体を動かす。 外部の日中活動サービスの利用者は、7名。	日中をグループホームで過ごす利用者に、身体を動かす活動を提供していることは評価できる。 日中をグループホームで過ごす利用者の障害種別に合わせた日中活動を提供し、必要な方には学習的要素のプログラムもあるとよい。 利用者が通所する施設名を正しく把握できていないことは評価できない。	コロナ禍ということもあり、近所の公園や近くの土手に散歩、お誕生日や月に一度ホットプレートを使用し調理企画をしている。 体験の利用等のニーズについて、ご家族の入院、高齢により同居が難しくなり、体験で入居。	感染対策を行いながら、利用者のニーズに沿った支援の提供及び余暇支援を広げることに努められたい。	日中は、1ユニットにつき直接支援員を3名配置。 夜間は、1ユニットにつき夜勤者を2名配置。	施設はハザードマップ上、浸水5m地区に所在し、災害時のリスクが大きい ため、緊張感を持って災害時に備えていただきたい。
9	野田市（グループホームふわふわ野田尾崎）	20名	個別支援計画により日常生活リズムを整えるため自室内の清掃・洗濯等を職員と一緒に行之う。簡易栽培している野菜の水やり収穫を職員と一緒に行之っている。 外部の日中活動サービスの利用者は、6名。	学習的要素、運動などのプログラムも検討されると良い。 今後日中をグループホームで過ごす方が増えてきたときにも、今と変わらない手厚い支援ができるようお願いしたい。	土日にレクリエーションやお茶会などをし、お散歩支援にて外出活動をしている。 体験の利用等のニーズについて、本入居前提の体験を7日程度行之い、体験後入居になっている。（6名）	利用者の生活スペース及びニーズに合わせて、車を使った外出や旅行など、様々な外出活動も検討されたい。	日中は、1ユニットにつき直接支援員を2～3名配置。 夜間は、1ユニットにつき夜勤者を2名配置。	緊急時にも対応可能な配置をお願いしたい。

		地域に開かれた運営について		短期入所の併設について		相談支援事業者や他のサービス事業所との連携状況について		その他	
	市町村	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会	事業者	協議会
7	松戸市（グループホームふわふわ松戸）	家族の方と、現在積極的に連絡を取り合い、内部の状況なども常に把握できるように努めている。家族会も行うよう検討している。近隣住民の方には、挨拶運動を通してコミュニケーションを深めており、今後ボランティアや実習生の受け入れを行っていきたい。	親亡き後の両親が抱える不安において、重要な資源になる家族会の検討や、ボランティア受け入れにおける社協との連携など、地域交流への積極的な姿勢が伺える。 助言として、グループホーム内での完結を目指さずに相談支援専門員や基幹相談支援センターの介入があればより良い支援ができると考えられる。 また、今後実習生やボランティアの受け入れを検討した際に、具体的な受け入れ方法やスケジュール等を示せるようにしていただきたい。	4名の受け入れを実施。 家族からのDVを理由に、緊急的な措置で入居された。	緊急・一時的等の受け入れについては実績があり、セーフティーネットとしての役割を理解し実態を備えている。同一敷地内にショートステイを設ける形は、グループホームで生活する利用者にとっては良い形である。緊急時を受け入れられるショートステイは松戸市内に足りていない資源であるため地域生活支援拠点事業を含めた検討をしていただけると有難い。	地域の相談支援事業所とは密接に連絡を取り合っていて、利用相談や個別支援状況の共有を行っている。現在利用している通所先の方々と日々利用者の様子などの連絡を取り合い、問題や何か気になった点などの相談を行っている。	他法人の相談支援事業所とも連携がとれており、サービスが事業所側の都合にならないよう努めている。 また、往診等も利用しており、連携体制は十分なものと考えられる。	設備をバリアフリーにしている。	車いすの方の避難経路の検討と扶南訓練の計画を実施していただきたい。
8	野田市（グループホームふわふわ野田上花輪）	現在は確保されていない。今後、家族会や住民交流を図っていきたいと考えている。また、実習生やボランティアの受け入れを今後の課題とする。	コロナの状況を見ながら、ご家族や地域住民との交流の機会を増やしていったきたい。 グループホーム内に外部の目が入ることも大切であることから、実習生やボランティアの受け入れを検討されたい。	受け入れている。退院後の行き先が決まらず、病院から直接入居された。	オンラインによる利用希望者との面談は、コロナ対策として良い取り組みである。 緊急対応、受け入れ希望の方は今後も増えていくと考えられるため、対応願いたい。	利用者の状況報告などの意見の交換を行っている。	他のサービス事業所との連携は取れているため、今後もこまめな情報交換をお願いしたい。		
9	野田市（グループホームふわふわ野田尾崎）	開所よりご家族が来所しやすい環境を整えている。お散歩支援にて挨拶運動を継続的に行っている。実習生やボランティアの受け入れを今後の課題とする。	コロナ禍ではあるが、ご家族が来所しやすい環境を整えていることは評価できる。 グループホーム内に外部の目が入ることも大切であることから、実習生やボランティアの受け入れを検討されたい。 自治会、町内会との関係構築に努めるとともに、積極的なレクリエーションとしての地域活動ができると良い。	受け入れ実績はないが、いつでも対応可能である。	緊急対応が可能な体制となっていることは評価できる。今後、実績を重ねていただきたい。	障害サービスと介護サービスを併用している方がいるため、相談員や行政などの関係機関と、週に1回程度の情報交換を行っている。その他、利用者の担当相談員と密接に連携している。	他のサービス事業所との連携は取れているため、今後もこまめな情報交換をお願いしたい。		